

語学教育研究所 講座

2024年 7月27日(土) 20:00~21:30

# 英語運用力を高める教科書の使い方

秋田南高等学校中等部 吉澤 孝幸

運用力

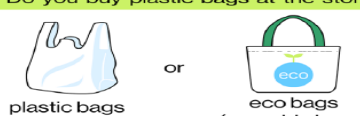
「時間をかければ分かる」

対

「即座に分かる」

大問2 英語の授業で、ニュージーランドから来た留学生が環境問題についてのプレゼンテーションをしています。その発表やスライドの内容をもとにして、あなた自身の考えとその理由を英語で伝えましょう。1分間話す内容を考えたあと、30秒で話してください。メモを取ってもかまいません。それでは、プレゼンテーションを聞きましょう。

Do you buy plastic bags at the store?

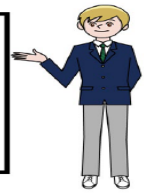


plastic bags or eco bags (reusable bags)



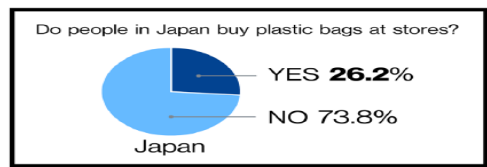
Do you buy plastic bags at the store? Or, do you use eco bags?

●「1分間」



Look at this picture. There are many plastic bags in the sea. It is a serious problem today.

●「30秒」



Now, look at this. I was really surprised to see this because over 25 % of people in Japan buy plastic bags at stores. In New Zealand, stores do not sell plastic bags and we take eco bags.



Some people may say plastic bags are becoming more eco-friendly, but I recommend stores in Japan should stop selling plastic bags. What do you think?

それでは、話す内容を考えましょう。(考える時間 1分)

それでは、30秒で話してください。(解答時間 30秒)

## オ 発表

(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら、口頭で要約したり、**自分の考えや気持ちなどを話したりする**活動。

## エ やりとり

(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した容**に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、**相手からの質問に対して適切に**応答したり自ら質問し返したりする**活動。

# 考える時間「1分間」

## Planning

Pre-task planning

Rehearsal

Strategic planning (how, contents )

Within-task planning

Pressured

Unpressured

(Ellis, 2005)

- \* 普段の授業で、タスクプランニングを行う指導はしているか？
- \* 調査があっても、なくても大切なこと。
- \* 0分、1分、5分、10分のプランニング条件 正確さ(1分)・複雑さ(10分のみ)・流暢さ(時間に比例)
- \* 様々なテスト・・・1分。技能統合的な要素。 ad-hoc

## 話す時間「30秒」

I think AI is very useful.

For example, they gave us information fast.

When I use chat GPT on line, I asked "Tell me about the text."

AI referred to many information we have to give. To the shop something.

.....Also AI sometimes can't understand what people say.

I asked to AI, What do you say Cyugoku-shikoku-chihou in English?

It says China country region, Four country region.

AI, sometimes, AI can't understand what I say.

I want to say, AI can't understand what people say. (150s)

- \* 何かを言ったら補足をする。聞き手に「効果的に」伝わるように。
- \* 羅列だと、話のポイントがどっちを向いているのか分からない。 Butの多用
- \* 話の流れが一点に向けて収束していない。

# 発話における問題点

A: *How was the vacation?*

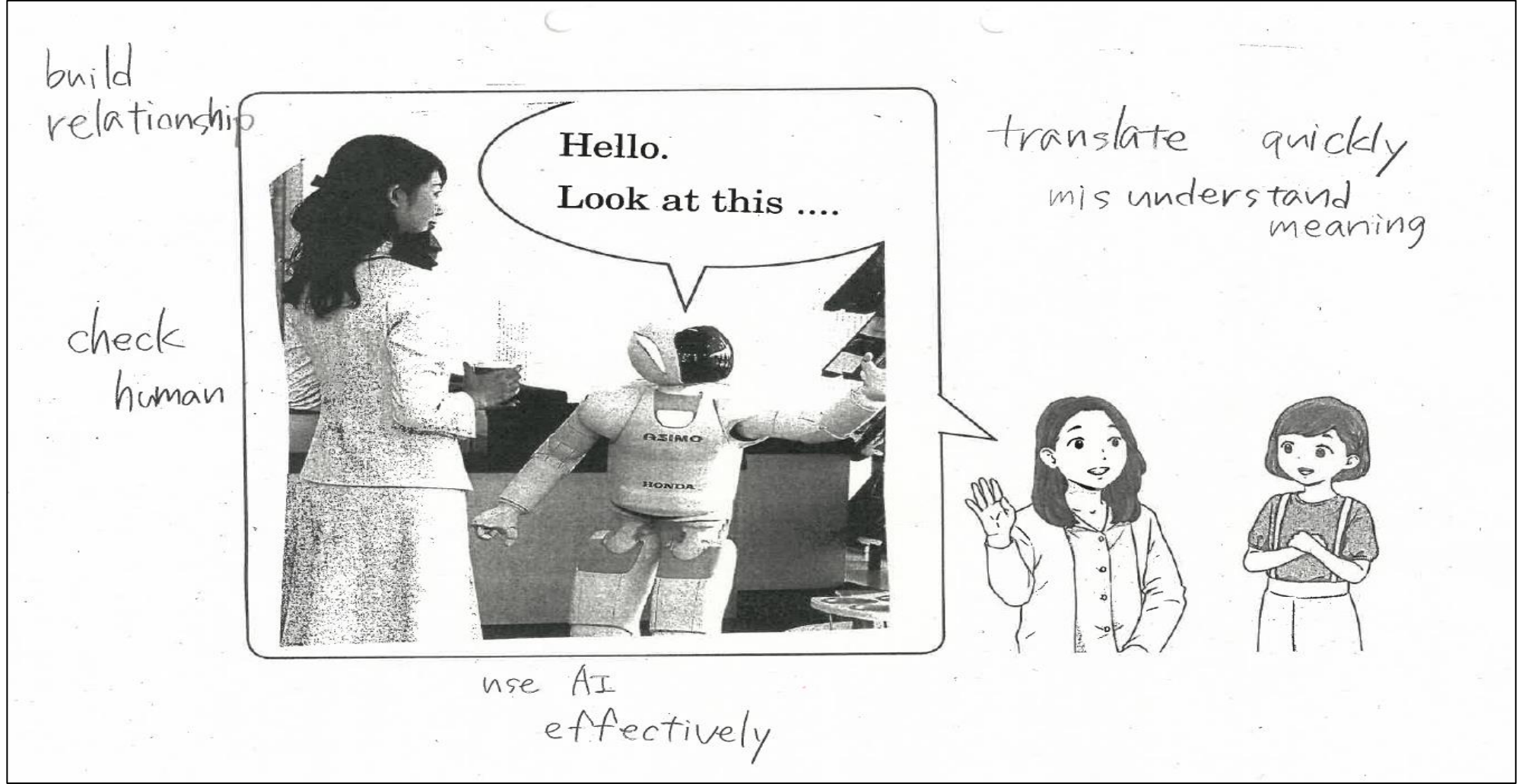
B: It was good.

どんなことがあったのかな？  
おそらく補足はくるだろうな。  
あれっ、これで終わり？

A: *How was the vacation?*

B: I went to a good restaurant. *But*  
there are many people. *But* I  
really enjoyed Japanese food  
there. *But* it was very expensive.

But で次が話の本線だな。  
あれれ、またBut？話はどっ  
ちに向かうの？



- \* 情報の階層性を考えた発話は、なかなか難しい。
- \* 言い換えが推奨されるが、実際の中学生・高1生の意識はどうか。



## 「再話寄り」でない理由

to tell a story, or present it again,  
often **in a different way** from its original form

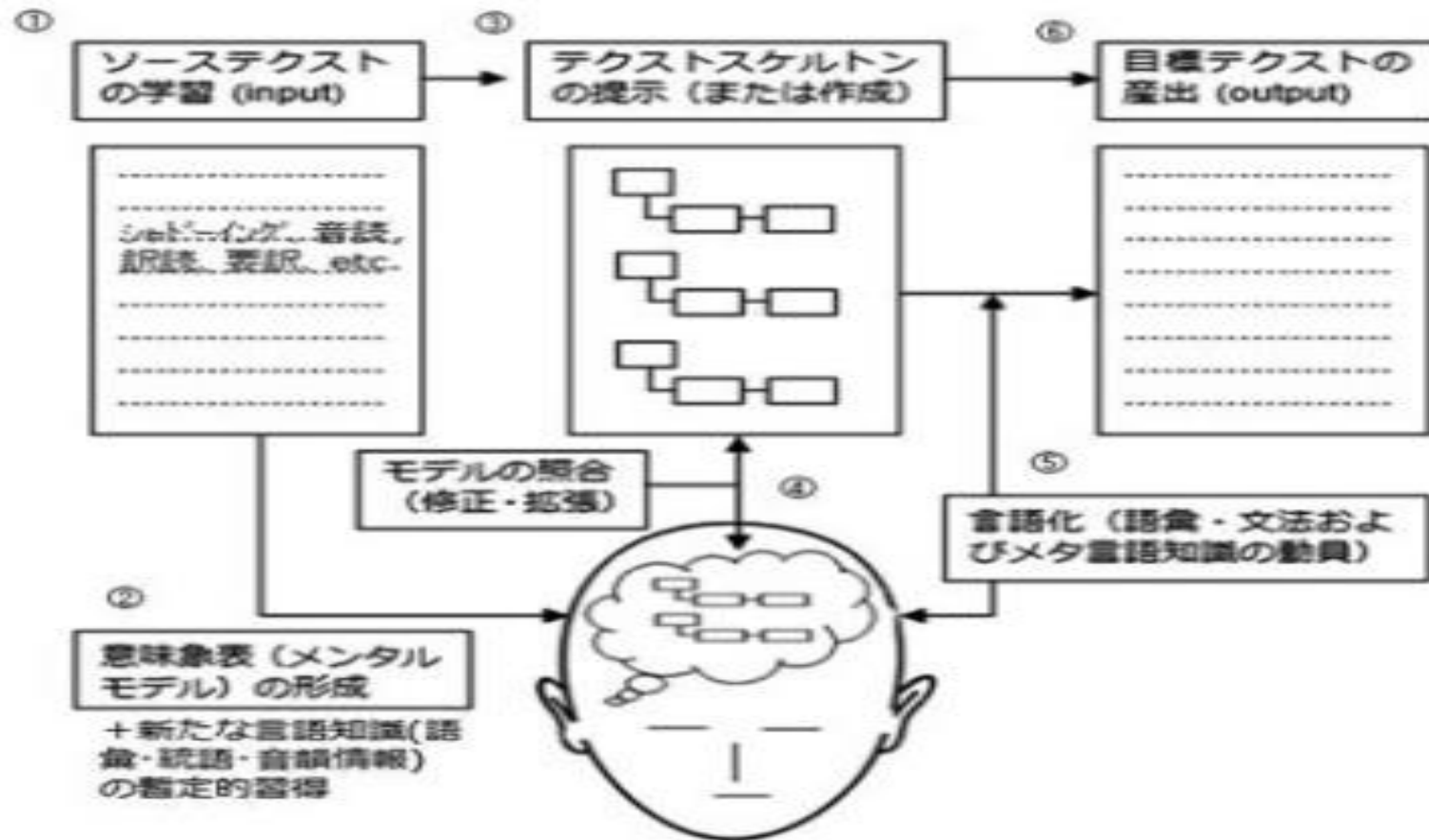
- ① 定義と中学生の実態（本校の高1）
- ② 順番通り
- ③ 再話が最終目標か

Top	Coverage of Spoken BNC
100	67%
200	74%
500	82%
1000	87%
<b>2000</b>	92%

“15歳でふれる英語の量が大切”

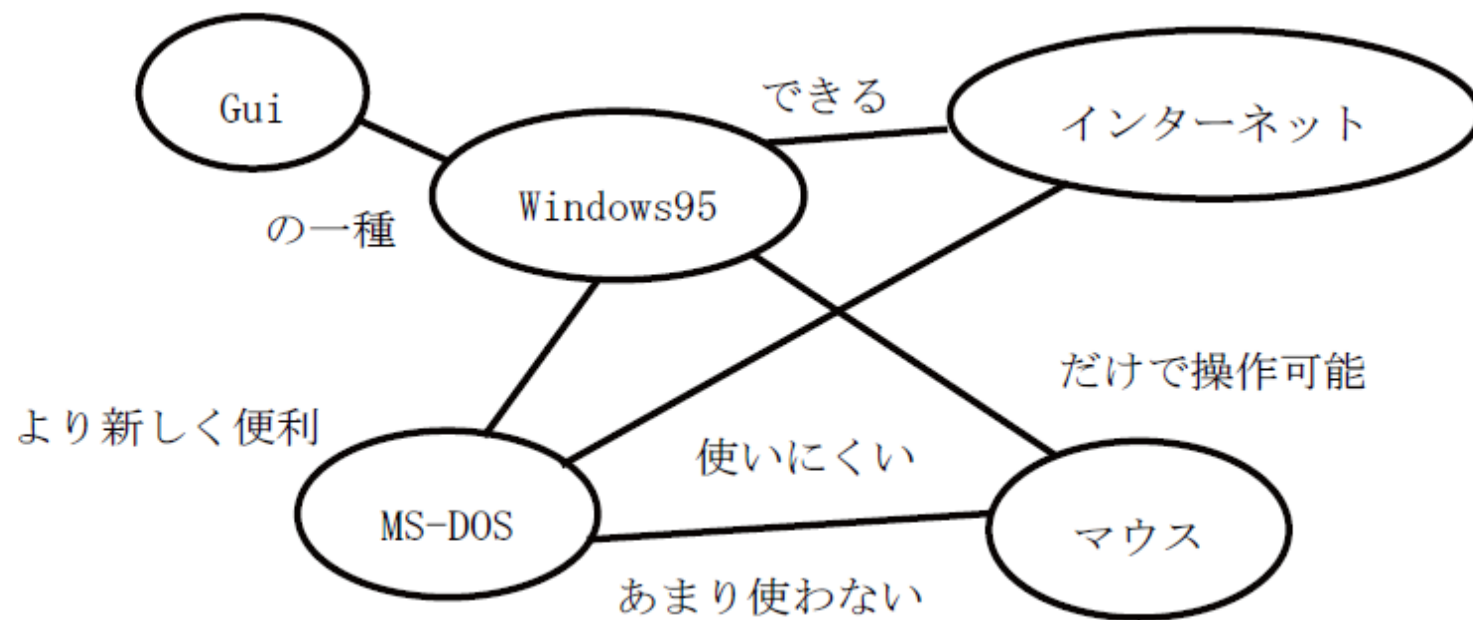
“Top 200語だと⇒74%をカバーできる”

# 言語産出のプロセス

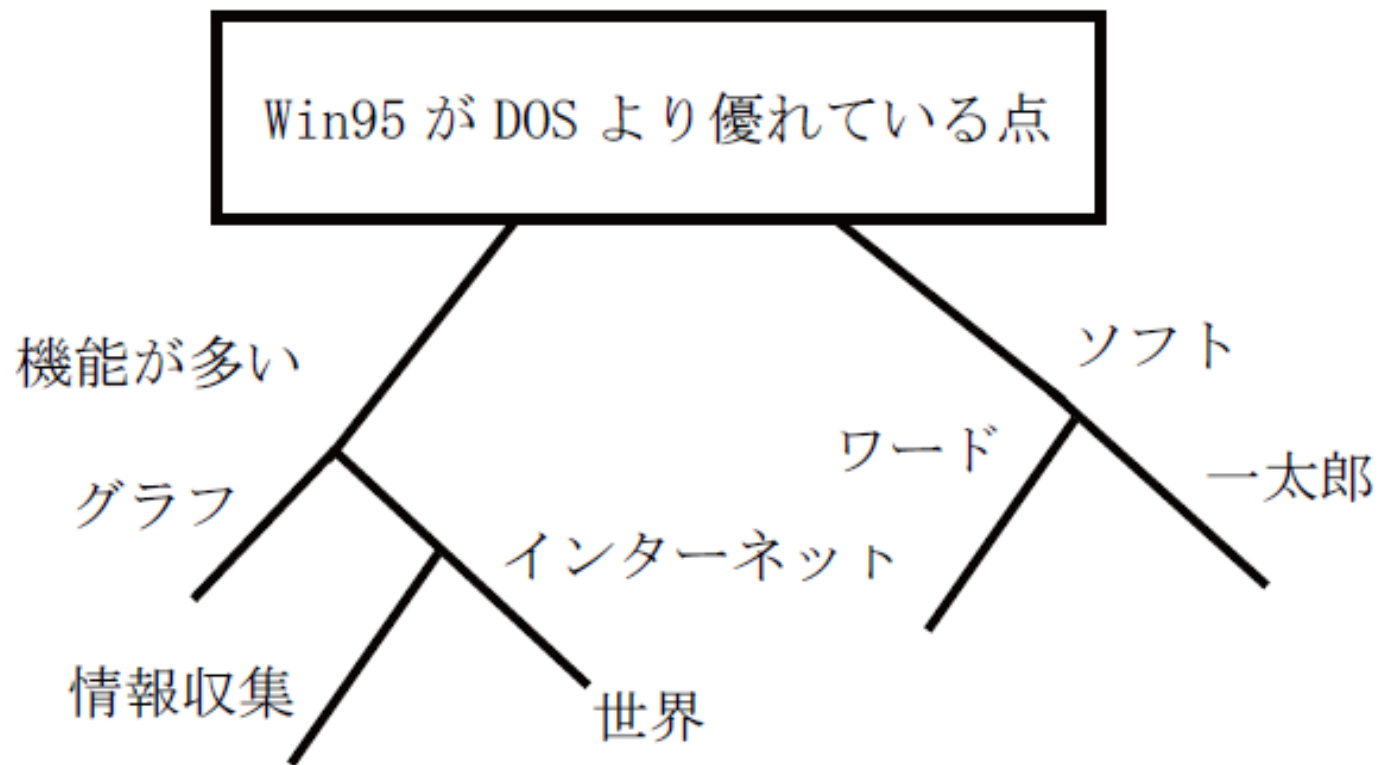


メモ（テキストスケルトン）からのフルメッセージ復元練習概念図

染谷泰正(2010)「プロ通訳者による通訳ノート及びノートテイキングの実験研究」  
日本通訳翻訳学会第11回年次大会口頭発表



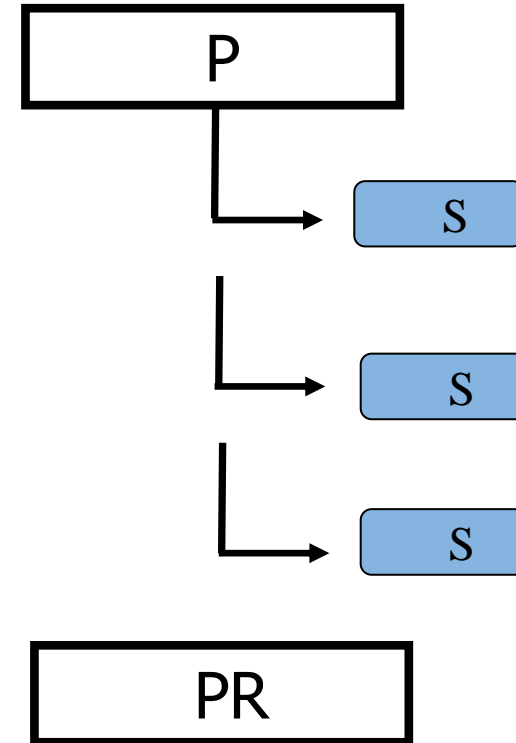
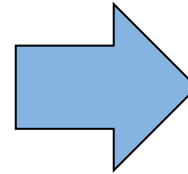
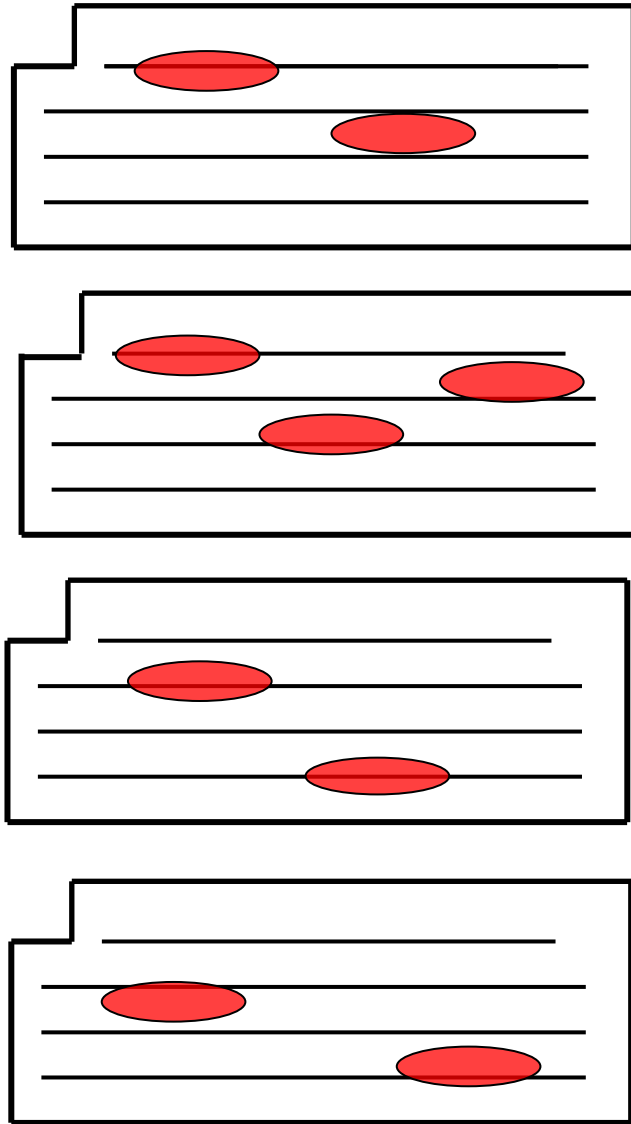
階層性を持たない概念ネットワーク図 [岩男2001:12]



階層的な概念ネットワーク[岩男2001:12]

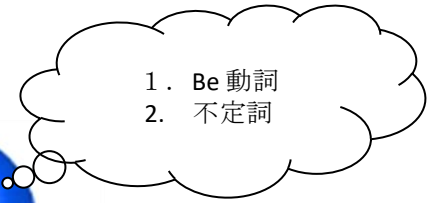
岩男卓実. (2001). 文章生成における階層的な概念地図作成の効果. *教育心理学研究*, 49(1), 11-20.

## 情報の精選・再構築



どの語を抜くか 自分で判断  
どう配列するか 自分で判断

# 「用法基盤モデル」の言語習得観に基づく指導



\* ボトムアップ: 言語経験を重ね抽象化

\* “word”レベルから相手にする。

ジェスチャー・顔つきから「構文が始まっている」

\* 思いついた語(word)と、チャンク(chunk)を結び付ける。

内容カテゴリーと機能力カテゴリー

\* **The progress of AI is changing** our lives.

= pivot + slot = slot 付きスキーマ = chunk

\* 思いつく語を出して、どんなチャンクと共起させるか。



日常生活での使用頻度が比較的高い定型表現、**チャンクを中心に展開されているのが**NHKラジオ講座『小学生の基礎英語』です。本書は、同講座で「楽しみながら学べる」と人気の4コママンガを使って、合計100点以上の英文を書き込みながら練習できます。気持ちを伝える、質問する、など使用場面を意識しながら学べる章立てなので、自分が自信をもって臨める英会話シーンがどんどん増えていくのを実感できます。もちろん、『小学生の基礎英語』

「定型句」の誤解

formulaic expressions / [prefabricated expressions](#)

1. 単元の最初のページ: Point of View の「問い」を確認する。
2. 自分の求めるイメージにふさわしいか点検、変更する。
3. Will AI take all of our future job away?  
➡ How should we face the age of AI? へ変更
4. 設定した問いに対して使える pivot を収集する。

MP: AI に対するイメージ

S1 (例)

S2 (利点)

S3 (価値付)

❑ MP (まとめ)

過去のページから仕入れを行う(チャンクの仕込み)

- \* 例示の時には
- \* 利点を述べる時には
- \* 価値付けをする時には

異なる補足を組み合わせる＝効果的に伝える

If / When / connect us to / through language / result of great inventions / Now it is time to recognize / can be your strength

<与え方>

- \* リストで与えても×
- \* 対話で引き出してやる。
  - ・プライミング効果が期待できる。
  - ・認知的アプローチを活用する。

## 1時間目

- \* Oral Introduction
- \* 階層的なノートテイキング(プランニング)
- \* 1回でも使わせる。

## 2時間目

- \* Interaction for Summary
  - インタラクションを通じて、ピボット(チャンク)を暗示的に与える。
- \* 階層的なノートテイキングを基に、回数を重ねる。
  - 「頻度」も大切な要因。使う頻度。聞かせる頻度。
- \* 1回～5回までメモあり。6回以降メモなし。

# 教科書

“生徒が自ら主体的に関わらなければ  
到底こなせる教材量ではない”

“中学校であのくらいの分量であるからこそ、  
コアの力が付くチャンスが生まれてくる”

“全体を音読するだけでなく、落としてはならない  
語から拡張する音読”

単元法(昭和35年CS)

一つのテーマに、言語活動や体験を一つに集めること。

The story told me that challenge is really important to change people. He changed the world. He tried to fight against the law made by the British. We can say the same thing in our daily life. If we want to make a difference in our life, we have to try something new. I think that there is no success without challenge. I want many people to learn about him and try to change small things. 原文ママ

Point of View の質問にいつでも瞬時に考えを述べられる状態を保つ。  
⇒「忘れた頃」にやらせてみる

# やり取りは、題材の理解を深めるか？

- 質問を受けたことで選んだユニットに対しての理解が深まったと思う。なぜなら、質問されることで**考えていなかった視点**を初めて考えたりするきっかけになった。
- 予想外の質問がくることで、もう一度ユニットについて考えて応答をすることで**少し違った視点**からそのユニットのテーマを考えられた。
- テーマについてどう思うか質問をうけて、改めて自分の考えを**限られた時間でまとめる**ことができた。ユニット前からは少しは成長した。

海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。【A】【B】

(正答例)

▪ I think A is better. It shows a teacher and students in a classroom, so it looks like a school. I don't think B is good because it looks like a library. [32 words]

▪ I think B is better. It shows that students are walking to a building. People will understand it is a school. When people see A, they may think it is a juku. [32 words]



## 珠玉の「解答類型1」

AとBの両方を見てますよ(理解を示す)  
英語圏の見方・考え方 fairness

For Japanese people, **both A and B are OK.**  
However, I think A is better. Some people may not think the building of B is a school building because the school building is different from country to country.

1. 単語から構文が始まっている。
2. インタラクションで、チャンク(ピボットを想起させる)
3. トピックが変わっても使える「骨格」をつくる。
4. 一度、底打ちしてから、自分でルール化。
5. 教科書は「宝の山」。宝を掘り出す視点を与える。